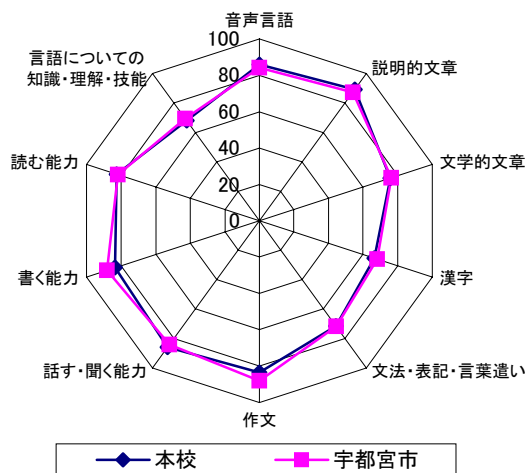


宇都宮市立旭中学校第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	85.9	84.1
	説明的文章	89.3	87.3
	文学的文章	75.8	76.3
	漢字	66.4	68.1
	文法・表記・言葉遣い	71.7	71.8
	作文	83.5	88.0
観点別	話す・聞く能力	85.9	84.1
	書く能力	83.5	88.0
	読む能力	82.6	81.8
	言語についての知識・理解・技能	68.2	69.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (85.9%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると1.8ポイント上回っている。おおむね詩の平均を上回っていると言える。しかし、出題内容の「司会者の役割」では0.7ポイント下回っており、普段の生活の場面で経験のないものについては、聞き取る力が弱いと考えられる。	・普段の授業で、話し合い活動を取り入れ、「話すこと・聞くこと」に意識して取り組める場を設定する。また、いろいろな場面を想定した聞き取りの問題に数多く取り組ませることによって、聞き取るコツをつかめるようにさせる。
説明的文章 (89.3%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると2.0ポイント上回っている。昨年度3.0ポイント下回っていたことを考えると生徒の努力が実を結んだといえよう。ほとんどの問いについて市の平均を上回っているが、最後の意見を述べる問題については無解答の割合が高かった。	・説明文の構成のパターンを常に押さえるとともに、一見難しく感じがちな漢語の意味を捉える方法を身につけさせる。それには漢字の訓読みの知識をつけさせることが不可欠であるとする。また、授業を通して説明文に触れる機会をなるべく多く作る。また、文脈に即して、情報をとらえ、文章の展開を捉えた上で、自分の意見を述べる活動を増やしていく。
文学的文章 (75.8%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると0.5ポイント下回っている。登場人物の心情を問う問題はいずれも市を上回っていたが、主題を問う問題、記述の問題の不正解、無解答が目立った。	・普段の読書指導が効果を上げていると考えられる。すでに読書が生活の一部になっている生徒も少なくない。しかし、同じ傾向の本ばかりを読む生徒が多く、今後は読書の幅を広げることも大切であろう。これからも学校司書と連携をとり、様々な読書活動を取り入れていく。また、感想を述べる活動を増やしていく。
漢字 (66.4%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが昨年度の宇都宮市の状況と比べると漢字は3.6ポイント下回っていたが本年度は1.7ポイントの差となった。まだ、平均には達しないが差は縮まったといえる使用頻度が高いにもかかわらず、正確に読み、書きができていないものが目立った。	・授業でも新出漢字の練習は時間をとって行っているが、いろいろな熟語としての形で文に沿って使えるようにする必要があると思われる。また、部首の形、意味をしっかり抑えた指導が必要と思われる。今後はそういった点も工夫して授業を構築していく。また、単元末テスト等の機会を生かして定着を図る。
文法・表記・言葉遣い (71.7%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると0.1ポイント下回っている。昨年度1.9ポイント下回っていたことと比べると改善が図れたと考える。おおむね市の平均を上回っていたが、同音異義語の問題の正答率が低かった。	・漢字の力がそのまま反映されているといえる。訓読みの力がなければ熟語の組み立てを理解するのは難しい。まずは言葉の基本である語彙力をいろいろな文学作品に触れたり、語句の問題演習を通して身につけていく。また、文法に関しては機会を作って何度も演習を行うことで定着を図る。
作文 (83.5%)	・昨年度と問題が異なるため、比較はできないが本年度の宇都宮市の状況と比べると4.5ポイント下回っている。が昨年度は5.6ポイント下回っていたので少し改善されたと考える。特に慣用句を用いた短文をかけない率が高かった。	・慣用句や四字熟語はカルタを作成して、活動させた。意味はある程度理解しているとおもわれるが、文を書く前にあきらめている生徒の率が高い。普段の授業でも短文を作る活動を多くし、慣れさせることが必要である。同じ言葉を用いたいろいろな文章に触れさせていく。